



安城のデザイナー×瀬戸物

コラボ置物 海外で高評価

宝玉をPRする水野さん＝安城市三河安城本町で



安城市三河安城本町のデザイン会社「D・W・E・B・E・R」の水野健一代表(右)が瀬戸市の陶磁器メーカーと手を組み、鳥をモチーフにして作った陶器の置物が、海外の有名ホテルで扱われるなど注目を集めている。水野さんは「陶器には見えない質感と、和の雰囲気が好き」とアピールしている。(四方さつき)

自動車メーカーの仕事で、うまみにデザインしてみた心を手掛ける中で「自分が思い」という欲求が芽生え、十

年ほど前から、えとにちなんだデザインをCG作品として制作するようになった。今春、アジアのデザイナーを対象にしたコンテストで、昨年のとり年に手掛けた作品を初めて出品し、最終選考に残った。親鳥が羽を丸めて卵を温めている姿をデザイン。評価を得たことに自信を持ち、商品化へ動いた。

瀬戸市出身で「家におもちゃが少なく、自宅の裏山の土でウルトラマンなんかを作って遊んでいた。ものづくりを始めた原点」と素材には瀬戸焼を選んだ。いくつかのメーカーに声を掛け、同市の「IMARUYO」と手を組んだ。

当初のデザインをアレンジし、3Dプリンターで型を作製。職人が手作業で仕上げた。両手のひらにすっぽりと収まるサイズで、本体は乳白色、朱色、珊瑚色、翡翠、漆黒の五色。中央部分は物を置けるようにへこませ、金色に彩色した。陶器とは思えない光沢が魅力で、「宝玉」と名付

たつねこ 西川 隆

けた。

陶器のため食器としても使える。水野さんは「結婚式でリングを置いたり、大切な食事の場で食器として使ったりと、特別な日に思い出を添える一品になれば」と期待する。六月に米朝首脳会談が開か

れたシンガポールのカハラホテルでの展示や受注販売が八月にスタート。他国でも商談が進んでいる。日本での販売は十月を予定。

D-WEBER 自社デザイン技術で新たな挑戦

「宝飾のような瀬戸焼」商品化



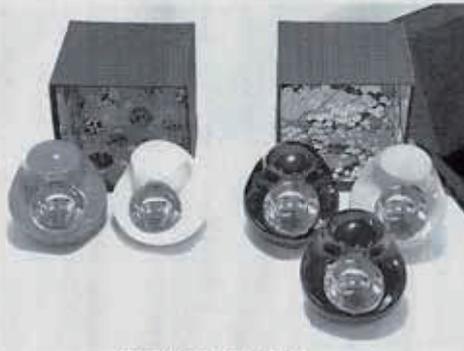
水野健一社長

同社は2000年創業。安城市三河安城本町にスタジオを構え、自動車関連

プロダクトデザインを手掛けるD-WEBER（ディーウェーバー、本社安城市横山町、水野健一社長、電話0566・89・2934）は、自社のデザイン技術を活用し、宝飾のような瀬戸焼「宝玉（ほうぎょく）」を商品化した。鳥をモチーフとしたデザインで、記念品や土産品としての用途を見込んでいる。シンガポールのホテル「カペラシンガポール」で展示販売を始めており、10月を境に国内でも販売する予定だ。

（安城・片桐秀樹）

向け工業製品のデザインをメインに展開している。ことし1月に開かれたデザインのアジア大会（アジアデザインアライズ2018）で水野社長の作品がファイナリストに選ばれたのが、新商品開発のきっかけだ。瀬戸市出身の水野社長は、瀬戸焼に着目。アジア大会でファイナリストに選ばれた作品をもとに新商品開発に取り組み、老舗瀬戸焼メーカーのIMARUYO（本社瀬戸市）とコラボ



宝飾のような瀬戸焼「宝玉」

シンガポールで展示販売

レーションした。鳥をモチーフに、難しい形状を焼き物で再現。金色の部分には金を一つ一つ手塗りするなど手間をかけて完成した。宝飾品だけでなく、食器などの用途を見込む。



●三河支社
岡崎市明大寺町
寺東5-3
鈴熊ビル
電話
0564(52)2260
FAX
0564(54)2336

●刈谷支局
刈谷市相生町2-11
佐藤会計ビル
電話
0566(21)6106

●三遠支局
豊橋市萱町21
佐藤ビル3階
電話
0532(54)2668
FAX
0532(35)7100



4
DESIGN



宝玉
HOUGYOKU

新しくも懐かしい
「宝飾のような瀬戸焼」



www.4-design.jp



CAPPELLA

カペラシンガポールで展示販売中

世界を魅了しつづける文化の中心地シンガポール。
その中でもひととき注目度の高いカペラシンガポール。
「宝玉」の展示および販売は最高の場所で始まり最高の榮譽をいただきました。
日本での販売は10月を予定



EDW 株式会社D-WEBER / 4DESIGN事業部
東京都港区赤坂2-1-10 TEL.03-666-89-2934

有償広告

西日本新聞 0825_0829_0901_0919

FujiSankeiBusiness i._0904